

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原		
所在地	岐阜県各務原市那加桐野町7-44-1		
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町村受理日	令和4年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2190500153-00&SerVieCeOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で活動が主に屋内に限定されていますが、レクリエーションは感染状況を見ながら実施しています。少人数でのお花見や散歩などの外出もできる範囲で行っています。地域との関わりが減少し寂しいですが、時に町内の方から野菜の差し入れをいただいたり、お声がけいただいております。今年度は訪問看護ステーションとの連携を始め、医療への不安を少しでも軽減できるように体制を整えました。ホームの理念である「家庭的な雰囲気の中で心安らく毎日を」を柱にして日々利用者様と生活を共にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中で利用者一人ひとりのペースを尊重し、できる事が継続してできるように、その人らしい暮らし方に行っている。事業所の生活時間はあるが、起床や就寝時間は自由に歩行訓練、体操、脳トレや家事作業等を希望に合わせて支援している。住民との交流はできないが、野菜の差し入れや畑作業の助言を受け、梅のお裾分けをしている。コロナ禍で接触する行為には細心の注意を払い、スタンドを活用し利用者もマスクを着用し職員がフェースシールドとマスク着用している。摂食時は黙食としているが、TVをつけて食べる楽しみにしている。訪問看護ステーションと業務委託し、外注でのムース食を取り入れ看取りへの体制を整えている。新はつつ職場づくり宣言を掲げ、ワークライフバランス推進エクセレント企業の認定も得て、働きやすい職場環境の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	暖かみのある日常の実践を心がけている。家事を一緒に行うことや、親近感を感じていただける声かけを意識している。	職員が理念を意識化しやすいように、玄関やホール等目の届く所に掲示している。毎月のミーティングで理念の振り返りと話し合いで目標を設定している。常に「自分の親だったら」を念頭に日々のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、コロナ禍以前は頻繁に交流していた。最近は時折季節野菜の差し入れをいただいたり、畑のアドバイスをいただいたり程度にとどまるものの、利用者様を気にかけていただいている。	住民との交流はコロナ禍で中断しているが、野菜の差し入れ、畑作業の助言時や散歩時に挨拶や話をしている。赤ちゃんと触れあい事業に利用者や参加したり、グランドゴルフ見学時に話したり、自治会長からふれあいセンターの活用を提案してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は「ふれあいサロン」に参加させていたが、現在は運営推進会議での報告を通して、認知症利用者様の支援のあり方を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見を参考として事故防止に取り組むことができています。例えば転倒事故防止のための床クッション材検討など。	書面会議の為、事業所の状況・事故報告等を事前発送し、メンバーから意見をもらい議事録にまとめて送付している。コロナ禍での労いの言葉、避難訓練の方法、転倒予防に向けた体力作りや歩行訓練の導入等の意見をもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在であればコロナ感染に関する報告や相談をすることで事業所の実情をお知らせしている。	市とは電話やメールでの相談や情報提供が主で、会議や研修はオンラインで参加している。書類提出や予防物品の受領等には、出向いて実情を伝えている。クラスター発生時は的確な助言を得て乗り切り、動物の出没や防犯情報等も頻回にもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月ごとの身体拘束適正化委員会開催にて話し合いを行っている。話し合いの結果はすべての職員に周知している。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、委員会を定期的に開催している。センサーマットの使用法、ヒヤリハットの事例検討、声かけや言葉遣い等について話し合い、拘束しないケアに努めている。年間計画に基づき研修資料の閲覧や事業所での対応法の検討をしているが研修の記録がされていない。	コロナ禍で1・2階を担当別にして、事例検討や身体拘束のルール化への取り組みを話し合い、工夫して研修しているが、内容、実施日、参加者等を記し、身体拘束への理解を更に深める事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段の行動が虐待でないのか、オンラインによる研修を実施し話し合い「気づき」を得ることで防止に努めている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を設けているが、利用者がいないので深く浸透していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時から施設で「できること」「できないこと」の説明を差し上げている。不明時にご質問に回答する形で不安を取り除くよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、苦情・意見の反映先をお伝えしている。苦情・意見をいただいた時は早急に対応させていただくよう心がけている。	玄関やガラス戸越しの面会時に聞いたり、電話やメールで意見や要望を聞いている。毎月の便りに写真を掲載したり、日々の様子を書き込んだりして、意見をもらいやすくしている。買い物依頼、散歩の要望、メールでの連絡希望に応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談があり、そこで意見を述べる機会を得ている。	毎月のミーティングや毎日の申し送りでも出た意見は検討し、フロアのレイアウト、オムツやレクリエーションの提案等があり取り入れた。管理者とは何でも言える関係で、急な休暇取得や研修希望も応じている。社長や役員面談で悩みや要望が言えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談時に評価を受けて「向上心」を持つことができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の機会を設け、参加の可否を尋ねてもらえる。職員が自分で判断して参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、直接的な交流はできていない。メールでの情報の共有にとどまっている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期にご本人と面談し、お話をすることでご本人の希望や不安をお尋ねし把握するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みされた時点からお困りごとや不安、希望をお尋ねし、ホームで可能な事柄を提案している。契約までに何度もお話を伺うことで関係が密になっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「必要な支援」に優先順位を設けて、順番にサービスにつなげている。ご入居して落ち着かれてからの訪問歯科導入など。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が「できること」は行っていただき、職員も都度感謝の気持ちを伝えることで「お互い様」の生活を営んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会禁止期間もあり交流が薄くなりつつあるため、普段のご様子を電話や写真でお伝えし、時にはご本人と会話していただくことで家族様も支援者の輪になっていただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状外部の方と交流が難しいため、ホーム内での知り合いの方や近所の方との交流を支援している。	家族や友人の面会は減少しているが、ガラス戸越しの面会、電話の取り次ぎ、年賀状を書く等で馴染みの関係が継続できるようにしている。1・2階で近所同士の利用者がいて、昔からの出来事や思い出話ができるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホーム内で知り合った方、近所の方をつなげる支援を心がけている。独りを好まれる方には無理強いはいしていない。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご挨拶においていただけ、うれしい時間を共有できたり、こちらからご様子をお尋ねすることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前のアセスメントから本人様の意向を伺いプラン作成に活かしている。本人様から聞けない時は家族様から意向を伺っている。	日頃から利用者に寄り添い、思いや意向を聞いている。職員と1対1となる夜間帯や入浴時に、ゆっくり聞いたり筆談で聞いている。困難な人には、手振り、顔や目の表情から把握している。起床や就寝時間は本人のペースにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントからこれまでの生活歴を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一緒に生活する中から皆様の一日の生活を把握できている。それぞれの能力等も理解し、できることは継続していけるよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティングや、毎日の申し送り、モニタリングによる家族様との連携にて現状を把握し、介護計画を作成している。	本人や家族の意向を聞き、医師や看護師の意見も参考に介護計画を作成している。日常記録を電子化し、日課計画表からの毎日の支援経過記録も参考に、6ヶ月毎に更新している。毎月のミーティング時に話し合いとモニタリングし、必要時は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過を日々記録。訪問看護ステーションとの連絡ノートも活用しながら介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の協力も得ながら、本人様にとって必要な支援を取り入れるよう実践している。提携医以外の受診や外出。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍のため、地域との関わりは行えていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は往診に切り替えている(コロナ感染予防対策として)が、必要と思われる受診は行っている。	入居時に本人と家族に説明し、協力医に変更される人もいる。家族が受診時は、日頃の様子を記した書面を渡し、受診後に家族から報告を受けている。歯科の訪問診療を利用し歯科衛生士から口腔ケアを受ける人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	8月から訪問看護ステーションと業務委託し、週1回の健康チェックに訪問していただいている。相談事は訪問時、また随時行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をし、退院時には可能な限り面談してスムーズな退院ができるよう努めている。主治医にも相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時「できること」「できないこと」をご説明している。また重篤化した場合は再度ご説明し、書類を交わすことにしている。	入居時に事業所でできる範囲の説明をし、本人と家族に意向を確認している。状態に合わせて職員及び医師が家族に説明し、看取りへの希望を確認している。家族も一緒に看取る場合は、寝具を提供している。今年8月から訪問看護サービスを取り入れ家族や職員の安心感につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ感染予防のため訓練が実施できていない。現在は書面での研修にとどまっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練(夜間避難訓練含む)実施。災害時の避難訓練、市のシェイクアウト訓練参加。地域参加の避難訓練は3年間行っていない。	職員が手薄になる18時に執務外職員は見守りで、火災訓練と水害訓練として通報、消火器訓練、階段の昇降移動等を実施し、反省点を話し合っている。水、食料や日用品等を備蓄し、BCPを作成している。水害時の避難所として住民に周知しているが、現在はコロナ禍のため住民の参加ができず訓練時に協力が得られていない。	職員に消防団員がいて、避難時や日頃の注意点等の指導を受けているが、コロナの終息時には住民の協力が得られるような働きかけが望まれる。

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに気をつけ、トイレ時や入浴時のプライバシー保護に気を配っている。時に声が大きくなってしまいうため、職員間で注意し合っている。	利用者一人ひとりの思いを尊重し、達成感が得られる支援をしている。接遇研修を実施し、馴れ馴れしい言葉遣いや声の大きさ等に配慮している。プライバシーを損ねる会話や声かけには、職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話を傾聴することで希望を確認している。難聴の方は筆談で希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床はご本人のペースに合わせている。休息や娯楽はご本人の体調も含めて充実した生活が送れるように考えて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた服選びができるように助言している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの食形態を配慮し、見た目にも食事が楽しめるよう工夫している。できる片付けは一緒に行っている。	希望の献立、行事食の特別メニュー、収穫した野菜や頂き物を使用、ワンプレート・弁当風盛り付け等で楽しい食事を心掛けている。下膳やお盆拭き等のできる事をしてもらっている。干し柿、梅ジュースや手作りおやつを作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をとることで一日の摂取量を把握し、足りていないときはおやつやジュースで補給できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後と就寝時の口腔ケアは特に重要と考えて実施。必要な方は訪問歯科の利用もしている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレでの排泄を心がけている。夜間職員が対応できない方はベッド上での交換を定期的実施。	排泄記録で声かけしたり、移動に時間かかる人は車イス移動したり、二人で介助しても日中はトイレ排泄ができるようにしている。パッドの検討や日中は布パンツにする等で自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	まずはバランスよい食事を提供し、便秘の改善を試みています。腹部マッサージをしたり、お風呂で温めたり。それでも便秘の方には医師に相談し、服薬につなげています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日の中で入浴時間は決まっていますが、ご希望の時間帯に入浴できるよう心がけています。	本人の希望で洗顔フォームや入浴剤を使用し、入浴時間も柔軟に対応している。季節の菖蒲・柚湯にする時もある。一人ひとりで湯を入れ替え、消毒し15分間の換気でコロナ禍でも安全に気持ちよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休憩時間を設けています。居室の温度に気をつけ、快適に休めるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診、受診後の処方内容を確認して、服用していただいている。副作用も把握して気をつけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のおつきあいから個々の楽しみを把握しているので、レクリエーションの提供やお話にいかせています。集団の中で偏りがないように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため外出は控えています。散歩や庭先での水遊び、時に希望に沿って買い物や喫茶、花見に出かける配慮もしています。	全員での外出はできないが、少人数で短時間の買い物、喫茶店、散歩、花見や初詣等に出掛けている。洗濯物干しや取り込み、プランターの花に水やりや畑の野菜の収穫等で外気に触れる機会を作っている。以前は庭先でバーベキューや飲食をしていた。	

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの元になるため金銭所持はありません。日常会話の中でお金の話をし価値を忘れることがないようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、電話の希望があれば行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な空間の中に季節らしい飾りや写真を展示しています。食事時には台所から食欲をそそるにおいや調理する音がして食事時間のお知らせになっています。	玄関やリビングに思い出の写真、利用者で作成した干支のちぎり絵や季節の壁画を飾り、利用者の作品や観葉植物等を置いている。空気清浄機や二酸化炭素測定機を設置し、常時換気し随時の消毒、利用者もマスク着用し感染症の予防に注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が広いので思い思いの場所で過ごせるようになっています。仲のよい方は近くで過ごせるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの品を居室に置かれています。危険がある物以外はお好みにレイアウトしていただいています。	自宅で使い慣れた寝具類、TV、タンスや時計を持ち込み、日本人形、家族からの誕生祝いの色紙、アルバムや葉書を飾っている。居室に畳を敷く人もいて、本を読んだり日記を書いたりしている。各居室に温度計を設置し室温にも注意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、お風呂の表示をわかりやすくしています。居室のネームプレートも見やすいように表示しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190500153		
法人名	有限会社百々		
事業所名	グループホーム百々各務原		
所在地	岐阜県各務原市那加桐野町7-44-1		
自己評価作成日	令和4年8月31日	評価結果市町村受理日	令和4年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2190500153-00&ServicceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で心安らぐ毎日」を理念として、利用者の方お一人お一人に寄り添い実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナ禍のため交流が難しくなっています。自治会に加入しているので時折お声がけいただいています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため「ふれあいサロン」への参加も中止となり、「運営推進会議」での報告で認知症の方の理解をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でいただいたご意見を検討し、実践できることは行っている。その結果もご報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連絡するように心がけている。疑問点はすぐに回答いただけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会等で全職員に周知できている。玄関の施錠はバス通りに面しており、市から施錠の指示を受けて行っているが、庭に面した掃き出し窓や居室の窓は施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の機会を持ち、全職員に周知している。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を持っているが、実際に利用している方がいないため活用はできていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約時にご説明している。疑問点には説明申し上げてご理解いただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱設置し、苦情やご意見の報告先も提示している。運営推進会議を利用しご意見をいただく機会としている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談で思いを伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働環境について説明を受けることができる。面談でもお話する機会を得ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を作り、参加の促しができている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の中制限があり、全員が参加できる訳ではないが、関係が途切れない程度には活動できている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くために寄り添い傾聴しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的にご連絡し、ご様子をお伝えしながらご家族様の意向をお聞きしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはホームに慣れていただけるよう支援し、そこから必要と思われるサービスを検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	慣れた職員とともに生活することで「家族」の一員としての役割をもってお互いを支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様あつての生活ととらえ、コロナ禍でも連絡が途切れることのないよう、電話の取り次ぎや報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染予防から面会制限があり、現在交流が難しくなっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで、利用者様同士が関わってよい関係が築けるよう支援。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もその後の様子をお尋ねしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向は職員が把握できている。把握が困難な方はご家族様から意向を伺っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントから大概の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を共にする中で個々の日常生活のあり方は把握している。健康状態は申し送りをすることで職員間に周知できている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティング、毎日の申し送りと、モニタリング、家族様とのやりとりから介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過に記録することで職員間で情報が共有できている。介護計画の変更にも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要と思われる支援は家族様とも相談しながら実施している。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	面会制限が続く中、地域資源の活用は難しくなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医が月2回の往診と必要時往診してくださる。相談事にも即座に対応していただける関係を築いている。提携医以外の受診も必要であれば行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの連携で、週1回の訪問と随時の相談事に応じてもらっている。急変にも適切に対応してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供をし、退院時にはカンファレンスを行いスムーズな退院に向けて努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームで「できること」「できないこと」をご説明し、重度化した時は再度ご説明。重度化、看取りに対応した書類を交わすことになっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ感染予防の観点から実際の訓練は行っていない。書面による研修にとどまっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練（夜間避難訓練含む）、災害時避難訓練、市のシェイクアウト訓練参加。以前は自治会と連携した避難訓練だったが、コロナ禍の現在は職員のみで実施。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員で連携し、個々の個性に合わせて対応しているが、時に声が大きくなってしまう。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴することから自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日見守ることでお一人ごとのペースを把握できているので、日々支援できている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員が鏡やブラシをお渡し、アドバイスすることで身だしなみを整えていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々決まった職員と一緒に過ごしているので、皆様の食形態と好みは理解しともに食事を楽しむことができている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を記録し、不足している場合は補えるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣づけ、夜間義歯を洗浄液につけて清潔を保っている。必要な方は訪問歯科診療を利用されている。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、お一人ごとの排泄習慣を把握している。必要な方は排泄の声かけをして汚染を予防している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	記録することで排泄状況を職員が周知して服薬による排便を促している。スムーズな排便につながるよう食事量の確認をしたり水分の提供も同時に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のニーズや身体能力に合わせて無理のない入浴を心がけている。希望の方には入浴剤を使用し、気持ちよく入浴していただけるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人ずつの就寝時間に合わせている。休息が必要な方はお部屋で休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方が変化したときには全員が周知できるよう申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好を職員が把握している。好きなTV番組の選択支援や、家事手伝い、脳トレ等をそれぞれが楽しんでできるように声かけしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は大勢での外出は控えています。近所の散歩や少人数でのお花見などは出かけています。		

グループホーム百々各務原

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭のトラブルが多いため現在所持されている方はみえません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望で電話の取り次ぎ支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と一緒に季節やイベントの飾り付けを行い日常生活の変化を共有。心地よい空間作りを楽しんでいます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や交流を考えて、皆様が楽しく過ごせるような環境作りに努めています。ご夫婦で生活されている方はお二人の時間が持てるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に住み慣れた家に近づけることができるようになじみの物を持参していただき、安心した生活を送れるよう心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはわかりやすいようにネームプレートを、「トイレ」「浴室」も見やすいように表示しています。		